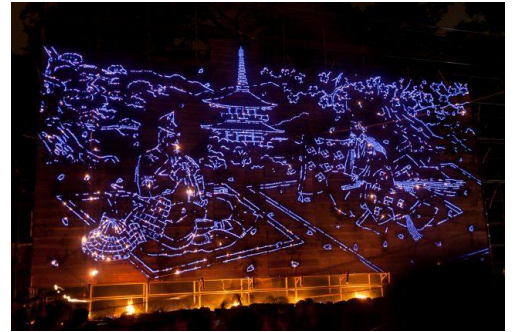


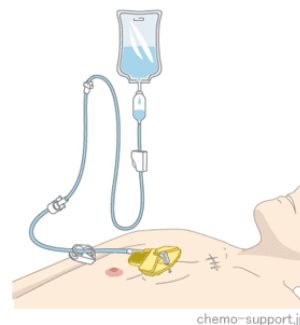
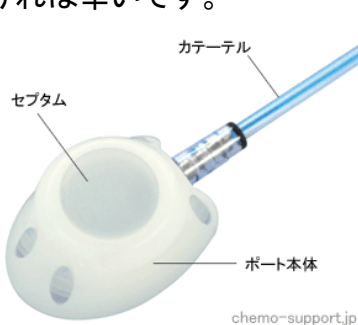
外科 マンスリーレター 2019.05

風薫るさわやかな季節となりました。新元号「令和」もスタートし、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。今月の外科マンスリーレターを担当させていただきます、藤田覇留久と申します。

世間は10連休となっておりますが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。実は滋賀県はお祭りが多く、5月も20近い大小さまざまなお祭りが催されていることはご存知でしょうか。1つ例を挙げますと、毎年5月4日に近江八幡で開催されている「篠田の火祭り」は国選択無形民俗文化財の選定を受けており、今では珍しい硫黄・硝石・桐灰を調合して作る和火薬を板に描いた絵柄に塗りこむ仕掛花火が上がるお祭りです。約1ヶ月をかけてつくられる花火は、高さ約15メートル・幅約25メートルの大きさと、毎年違った題材の絵柄が描かれ、しみじみとした感動を与えてくれます。日々の診療の息抜きに一度足を運ばれてはいかがでしょうか。



さて、今月は中心静脈ポートにつきましてご紹介させていただきます。中心静脈ポート(以下CVポート)は正式には皮下埋め込み型ポートといわれ、100円硬貨ほどの大きさの本体とカテーテルより構成されています。通常、鎖骨下静脈よりカテーテルを挿入し、右または左前胸部の皮下に埋め込むため、外からはほとんど目立ちません。カテーテル先端は上大静脈に留置されます。近年高齢化に伴い、経口摂取不十分で在宅または療養型病院で点滴を行っているお年寄りが増加しています。しかし毎日の点滴によりルート確保困難となると、頻回の刺し替えや点滴漏れによる皮膚障害がしばしば見られ、患者様・医療者双方の負担を強いることとなります。CVポートを留置すれば、穿刺は非常に簡便となり、漏れる心配をすることなく高カロリーの輸液を行うことができます。留置は手術室での小手術が必要となりますが、局所麻酔にて約30分～1時間程度で留置可能です。ご希望があれば鎮静下での施術も可能です。当院ではこれまで院内での他科からの紹介や当科での抗がん剤施行目的での留置を中心に年間50件程度のCVポート留置を行っていましたが、今年度よりCVポート外来(月曜:大江担当)を設立し、他院からのご紹介を積極的に受け入れさせていただいております(火～金も対応可です)。手術は入院、日帰りいずれも対応しております。経口摂取不良の方、点滴抗がん剤導入予定の方がいらっしゃいましたらいつでも当科をご紹介いただければ幸いです。



参考・引用
しがトコホームページ
メディコンホームページ